

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 三重県立四日市西高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		自主・自律をモットーに、地域から信頼される活力ある進学校を目指す。
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感できる生徒</li> <li>・生徒一人ひとりの持つ力を伸ばし、それぞれの目指す進路を実現できる生徒</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の専門集団として力を高め、協働して活力ある教育活動を創造する教職員</li> <li>・「信頼」を軸に、生徒、保護者をはじめ全ての関係者との絆を深め、安全で安心して学べる教育環境を創造する教職員</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	生徒は学習指導などを通して、粘り強く進路実現をしたいと望んでいるが、やや受け身の傾向があり、自分からは積極的な行動に移せない面がある。また、保護者からは、様々な情報提供を受けて、子どもの成長を実感し、本人の望む進路選択をさせたいと望んでいる。さらに、地域からは地元の中学生在が入学したいと思う、頼れる学校であってほしいと期待されている。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	地域の保幼小中からは、模範となる高校生としての行動を期待されている。西高で大学をはじめとする上級学校へ円滑に接続できる確かな学力や生きる力をつける指導を継続的に行い、個々が希望する自己実現を目指す。	地域の学校として、本校の教育活動に理解・支援をしていただくとともに、忌憚のない意見や提言をしていただきたい。また、小中高の一層の連携を深め、地域全体で児童生徒を育む取組を進める。
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートから授業目標を明確にすることで、生徒の学習の満足度を更に向上させられるのではないか。</li> <li>・進路実現に向けて教職員集団が一丸となって進めていただいていることは、進路決定先や生徒の意識の向上から手に取るように分かるが、生徒一人ひとりの可能性をみいだしながら更なる工夫に努めていただけることに期待している。また、社会へ出て行く前段階としての自主自律といった面で家庭と連携し、更に進めていく必要がある。</li> <li>・学校行事等への生徒の参画が着実に進んでいるようであるが、生徒会役員の益々のリーダーシップに期待したい。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	本校は本年度で創立42年目となる普通科高校である。これまでに卒業生は15,161名に及び、地元四日市市をはじめ全国で活躍している。平成7年度に比較文化・歴史コースを新設し、続いて平成15年4月には数理情報コースを新設することで、普通科の中から、さらに学びの視野を広げ、難関とされる大学への進学を念頭におきつつ自己実現を図りたいとする地域の要望に応えることとした。現在、前期選抜でコース定員の25%を募集し、残り75%について、平成25年度入学者選抜から、両コースをくり募集とした。創立以来年々教育活動を充実させて現在に至っているが、本校への近年の志願状況は全体として1.3倍前後で推移している。また、最寄りの各中学校の卒業生に占める本校への入学者の割合は、それぞれ約13%前後の状況である。このことから、本校の教育活動は、地元地域から一定の評価と信頼を得ていると判断できる。また本校へ通う生徒はその70%が四日市市、特に市の中西部近鉄線沿線に集中しており、近隣の三重郡菰野町が13.9%、鈴鹿市が11.1%となっていることから、地域性の強い学校であるといえる。

学校 運営等	本校は、常時1千名弱の生徒・教職員が生活する高校として、土地合計約59千㎡、建物合計約15千㎡に及ぶ敷地と施設・設備を擁している。これらをフルに活用し、平素より安全で安心して学べる教育環境づくりに努めている。併せて地域貢献の一環として、学校体育施設開放事業を実施し、地域住民をはじめ、広く県民に開放している。また、大規模地震等災害に備え、四日市市の指定避難所として地域住民の防災避難訓練等を受け入れている。
-----------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 質の高い授業の創造に努め、生徒が、自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感できるよう授業の充実を図ります。</li> <li>② 教科マネジメントを確立することにより、学びの仕組みを十分に機能させ、基礎学力の定着と自ら設定した進路希望を実現するための、確かな学力の定着を図ります。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒・生活指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の自己指導能力向上を図ります。</li> <li>② 高い規範意識と公共の場での倫理観を確立させます。</li> <li>③ 学校行事・課外活動を通して活力のある西校生の育成を支援します。</li> </ul> </li> <li>○ 進路指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の進路希望の実現に向けて、教職員は面談の力を高める努力をします。</li> <li>② 教職員は生徒の学習活動を重視し、希望実現に必要な学力の向上・定着のための支援を行います。</li> <li>③ 教職員は、進路指導にかかわる各種データや情報を整備し活用できるようにします。</li> </ul> </li> <li>○ 人権教育 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教職員は「人権教育はすべての教育活動の前提である」という認識に立って行動します。</li> <li>② いじめ防止対策基本方針をふまえ、3年間を見通した系統的な人権教育の指導体制を構築し、全教職員が協力して取り組みます。</li> <li>③ これまでの人権・同和教育の成果をふまえ、「信頼」を軸に人権感覚溢れる学校づくりをします。</li> </ul> </li> <li>○ 保健管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の健康状態や健康課題を適切に把握し、生徒が自らの健康課題に取り組めるような機会を設けるとともに、生徒が安全かつ安心して学ぶことのできる学校環境づくりをします。</li> <li>② 関係職員との連携をより充実させ、同じ見通しを持って生徒を支援します。</li> </ul> </li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校運営全般 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 高大接続改革等の教育改革に対応しうる学習の仕組みや授業の在り方について、本校独自のシステム構築に向けて研究開発をします。</li> <li>② 教育活動全般にわたり効果的なマネジメントに努め、その結果をもとに学校関係者評価活動に取り組むことで、学校マネジメントの質を高め、教育活動の向上に努めます。</li> <li>③ 教職員が対話を通してお互いの関係づくりに努め、支え協力し合うことを通して組織能力を高め、やり甲斐を持って教育活動に邁進できる満足度の高い学校づくりをします。</li> <li>④ 過重労働の防止等、教職員の総勤務時間の縮減に努め、健康管理と健康維持の取組を強化します。</li> </ul> </li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。  
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。  
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1学習指導	<p>(1) 週課題の内容・評価・事後指導等について検討し、教科・学年と連携して計画的に実施します。</p> <p>① 教科、学年と連携し、英語・数学・国語について計画的に実施します。</p> <p>② 課題提出率90%以上を維持しつつ、学力の向上につながるよう、内容、評価、事後指導等について検討を深めます。</p> <p>(2) 目標を明確に示す授業の在り方について研究し、授業の質を高める取組を行います。</p> <p>(3) 生徒が最も適切な科目選択ができるように、指導方針や指導方法について教科、学年団、進路指導部が連携して継続的に検討します。</p> <p>① シラバスとそのダイジェスト版を整備し、適切な時期に活用配布します。</p> <p>(4) 教科会議において授業内容や進度、考査等を適切に管理するとともに、学習指導における諸問題について検討し、対策を立案します。</p> <p>① 教科会議を月1回以上開催し、その機能を高めます。</p> <p>(5) 生徒一人ひとりの学習状況を把握し、時期を逸することなく「課題・補習・面談」を実施するよう努めます。</p> <p>① 生徒の「学習実態調査」を定期考査毎に実施します。</p> <p>② 必要に応じ日常的に生徒との面談を行います。</p>	<p>・教科・学年と連携し、英語・数学・国語について計画的（学期ごと各教科 10 回程度）に実施した。</p> <p>・週課題の提出率は 90%以上(2学期末時点 91.4%)を維持できた。また、2学期末に実施した生徒向けの意識アンケートでは、85.6%の生徒が「週課題に取り組むことは、自分のためになると思う」と回答した。</p> <p>・授業アンケートの「今日の授業の目標(何について学習しようとしたのか?)は明確である」について、昨年度の 84.0 ポイントから今年度は 88.1 ポイントに上昇した。</p> <p>・生徒向け及び保護者向けの文理選択説明会でシラバスダイジェストを配布し、文理選択に活用した。また、学校生活に関するアンケートで、92%の生徒が「自分の進路希望や適性に合った(1年)文理選択(2・3年)文理選択・系列選択ができたと思う」と回答した。</p> <p>・各教科、概ね月1回の割合で教科会を開催し、授業運営等の話し合いに努めた。</p> <p>・実施できた。</p> <p>・概ね実施できた。</p>	

<p>2生徒指導</p>	<p>③ 必要に応じ適切に学習課題や補講を設定します。</p> <p>(1) 生徒が自分で判断して実行し責任をとることを指導の中で経験させていきます。</p> <p>① 生徒に自己存在感を持たせるために、一人ひとりに丁寧に対応します。また、教員間での情報共有を密にします。</p> <p>② 教員と生徒の共感的な人間関係づくりに努めます。全校集会・学年集会など様々な場面で、具体的且つ分かりやすく生徒に語りかけ、考えさせる指導を行います。</p> <p>(2) 規範意識やマナー向上の指導を通して、その意味や社会の一員としての在り方についての自覚を促します。</p> <p>① 登校遅刻・授業遅刻防止の取組により、生徒の「時間を守る」意識を更に高めます。</p> <p>② 定例の頭髪・服装指導と併せて「服装指導の日」を設定し、日常的に指導を行います。特別な指導や支援が必要な生徒への対応について理解を深め、指導力を高めます。</p> <p>③ 登下校時の危険個所に立ち、全教員で登下校指導を行います。</p> <p>④ 生徒の登下校時のマナーや交通法規の順守について意識を高める取組を実施します。また、地域に支えられていることの自覚を促します。</p> <p>⑤ 各種安全教育講習を実施します。</p> <p>⑥ 環境美化に対する意識を高める機会を設定し、快適に学べる環境を維持します。日常の清掃活動の徹底と、学校環境デー、地域クリーン活動、奉仕活動を設定します。</p>	<p>・各教科担当者において、課題を分析し、補講等を設定し、概ね対応できた。</p> <p>・教員からの挨拶や声掛けを積極的に行い、生徒との信頼関係を築きながら生徒の自己存在感を育むと共に、生徒自身で考え判断させる指導に努めた。また、生徒相互のコミュニケーションを図るために、生徒会役員との協力を得て1学期末と2学期末に挨拶運動を実施した。</p> <p>・昨年度に引き続いて問題行動が少なく落ち着いた状況にある。</p> <p>・要指導遅刻の状況は、昨年と比較すると若干増加したが、過去5年間と比較すると大幅に減少している。</p> <p>・頭髪服装指導における不合格者数や交通違反などにおいても指導件数の減少がみられる。</p> <p>・全教員による毎朝の登校指導を実施した。</p> <p>・新入生対象の自転車点検などの取り組みにより交通事故の減少に繋がった。</p> <p>・各種安全講習会(携帯マナー、薬物乱用防止、交通安全)の開催により生徒の自己防衛能力の向上を図った。</p> <p>・各学期末の美化週間とクリーン活動を実施した。</p>
<p>3特別活動等</p>	<p>(1) 生徒会活動を活性化させ、学校行事を生徒主体で取り組めるよう継続して指導します</p>	<p>・数々の行事や活動に対して生徒たちが主体となって、</p>

<p>4進路指導</p>	<p>① 執行部活動の在り方について検討を加え、行事の準備が円滑に進む態勢を作ります。</p> <p>(2) 信頼できる人間関係の構築を軸とする質の高いクラブ活動に継続して取り組みます。</p> <p>① クラブ活動掲示板の活用を促進し、選択のミスマッチや情報の滞留を防ぎます。</p> <p>(1) 進路に関する知識や情報を収集・理解し、面談等を通じて進路実現への道筋を用意します。</p> <p>① 生徒との面談の機会を増やし生徒理解を深めます。</p> <p>② クラス担任を軸に、教科担任、クラブ顧問、生徒指導、教育相談等関係者の情報交換の機会を増やし、密に連携します。</p> <p>(2) 自学自習の精度を高める授業・学習を目指すとともに、学習支援活動を行い進路実現を図ります。</p> <p>① 進路ガイダンス、進路講話の質を高め、生徒の進路意識の向上につなげます。</p> <p>② 進路情報を効果的に伝える方策を検討し、保護者が子供と一緒に考え、適切に支援や判断ができるよう取り組みます。</p> <p>③ 進路指導に対する満足度90%以上をめざします。</p> <p>(3) 進路に関する各種データや情報を活用しやすいように情報発信の機会を図ります。</p> <p>① 教科会は、模擬試験や考査の結果について検証し、それをもとに指導計画を立て、取り組むことで指導力の向上を図ります。</p> <p>② 進路指導部は、模擬試験や基礎学力テストの分析会を企画することで、教員がそれぞれ関係する担当・学年毎の弱み、強みの把握と今後の指導改善が行えるように支援します。</p> <p>③ 生徒の入学時から卒業までの成績推移等、個別データを関係教員間で共有できる仕組みを進路指導部が進路検討会などを通じて構築し、担任、教科担任、部活動顧問等それぞれの関わりのなかで生徒の第一希望の実現を図ります。</p>	<p>生き生きと活発に取り組む様子が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートより学校行事に対する満足度 93%。</li> <li>・アンケートより部活動への頑張る度 91%。</li> </ul> <p>・予定されている面談＋必要に応じた面談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段より担任を中心に共有を図った。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年ともに毎学期一度の進路指導講話を行った。</li> <li>・文理選択や科目登録、進路選択を考える機会を与えた。</li> <li>・学年進路通信の発行1回／月により、家庭と学校の情報共有を図った。</li> <li>・進路指導部と学年の連携により、幾度となく生徒面談を繰り返すことで、進路指導に対する満足度 95.2%を達成。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年生については、年2回ずつの外部講師による模擬試験の分析および今後取り組むべき点を研修した。</li> <li>・夏季課外等においては、過去最多の講座を開講し、多数の生徒が受講した。センター試験の出願数も270名と3年連続での85%越となり進学における基礎学力の定着指導が生徒にも浸透してきていることが伺える。</li> </ul>
--------------	---	---

5人権教育	<p>(1) 教職員は「人権教育はすべての教育活動の前提である」という認識に立って行動します。</p> <p>① 教職員への人権推進計画の内容の周知及び、教職員研修の充実を図ります。</p> <p>(2) これまでの人権・同和教育の成果をふまえ「信頼」を軸に、人権感覚溢れる学校づくりをします。</p> <p>① 人権教育推進の指導計画を見直し、改善を図ります。</p> <p>② 人権学習を公開することで教職員のスキルアップを図ります。</p> <p>③ 人権学習ではグループ学習を中心として、仲間づくりや問題の共有化、他者の尊重に重点をおいて取り組むと共に、生徒の自主的な活動を援助します。</p>	<p>・日常的に「人権意識の向上」のために学校内の掲示板を利用して「命の尊重と人権」に係わるテーマについて重要な点を伝えた。</p> <p>・「命の尊さと人権」について、「PTA共催人権講演会 命の授業」をPTA(総務部)と協力して開催し、「障害者差別解消法」の周知とともに、「命の尊さと人権」について考え、生徒自身が自分と向き合える機会となった。</p> <p>満足度調査では、95%以上の満足度であり、心に響いたと感じている生徒が多かった。</p>	
6保健管理	<p>(1) 生徒の心身の健康状態の変化や問題点を早期発見するために、全職員において日常的な健康観察の充実を図り、適切な対応ができる体制を作ります。</p> <p>(2) 校内の安全点検を実施し改善していくことで、危機発生を未然に防ぎ、適切な学校環境衛生を確保します。</p> <p>① 校内安全点検を年2回以上実施します。</p> <p>(3) 会議・研修会を利用し、教職員の保健・教育相談分野への理解向上を図ります。</p> <p>① 研修会を年1回以上実施します。</p>	<p>・保健調査や健康診断、個別の健康相談を元に健康状態を把握し、学校行事や日常生活における配慮を教職員で共有するとともに、対応を検討し緊急体制を整えることができた。</p> <p>・安全点検を年2回実施、関係者と改善点を話し合い、安全確保のために早期対応が進められた</p> <p>・今年度より生徒保健委員会活動として月1回ウォータークーラーの水質検査や校内清掃、感染症流行期の教室換気を実施した。</p> <p>・教育相談専門員との関係者会議の中で、情報共有や基本的なカウンセリングの知識等を伝え、関係職員の教育相談的スキルや知識を深めることに役立てた。</p>	

- ・「命の大切さ」「SNS等ネット上のトラブル防止」「いじめ防止」等、個人の尊厳及び社会連帯に関する意識への啓発強化
- ・授業改善と更なる質の向上及び家庭学習の促進
- ・四西手帳の更なる充実と活用
- ・進路実現に向けた意識の高揚
- ・高大接続改革に向けた職員間の情報共有と対策
- ・生徒の自己指導能力の向上促進
- ・各種データや情報の整備と活用のスキルアップ

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1組織運営	<p>(1) 関連する情報を適宜適切に収集し、各部会、委員会、教科会を機能させることで、対応策について研究し、具体策を構築します。</p> <p>① 企画・運営委員会の機能を強化し、入学者選抜の在り方など学校経営上の課題や改善策の構築について提案します。</p> <p>(2) 本校独自のキャリア教育やその指導の在り方を中心として、教育活動の改善や新規事業の提案、指導法について研究開発します。</p> <p>① 総合的な学習の時間の年間指導計画とその指導案について見直します。</p> <p>(3) 学校関係者評価の取組を機能させ、業務改善に向かう組織風土づくりに取り組みます。</p>	<p>・前期入学者選抜において、個人面接から集団面接に変更</p> <p>・四西手帳の導入</p> <p>・各学年4月当初に検討し見直しを行った。</p> <p>・学校関係者評価委員会での指摘事項や改善課題を取り組みや指標に反映。</p>	
2業務改善	<p>(1) 日常の職務・研修を通して、教職員の能力の向上を図ります。</p> <p>(2) 小さなグループによる相談や意見交換など課題解決に向けた対話が日常的に行われる仕組みと雰囲気づくりに努めます。</p> <p>(3) 面談・課外・クラブ活動など生徒と向き合う時間確保に努めます。</p>	<p>・職員研修として、1回/月の割合で実施。</p> <p>・面談週間を行事計画に入れ込んだ。</p> <p>・会議の精選と時間の短縮を実施。</p>	
3情報提供	<p>(1) 本校教育活動を全体として生徒、保護者、地域社会に対し効果的な情報発信に努めます。</p>	<p>・各学年通信1回/月発行。</p>	

<p>4教職員の健康管理</p>	<p>(2) 全ての関係者との関係づくりに努め、地域とともに育つ学校づくりを進めます。</p> <p>(3) 必要に応じ保護者、PTA、同窓会と密に連携します。</p> <p>① 情報の伝え方を検討し、学校行事への参観や参加の呼びかけを強めます。</p> <p>(1) 教職員は日常的に健康管理に努めるとともに業務改善に向け行動します。</p> <p>① 一人ひとりが休暇取得日数を昨年度より1日以上増やすように努めます。</p> <p>② 毎月最終金曜日を定時退校日とし、一人ひとりが定時退校に努めます。</p> <p>③ それぞれのクラブにおいて、部活動休養日を週1日設け、休養に努めます。</p> <p>(2) 過重労働対策報告をもとに、産業医面談を設定し業務改善に努めます。</p> <p>(3) 全体として総勤務時間の縮減に向け継続して取り組みます。</p> <p>① 各会議時間は、60分以内を設定し、時間内に終了できるように努めます。</p> <p>② 職場全体における総勤務時間の縮減に努め、前年比3%の縮減をめざします。</p>	<p>・西高通信1回／月発行し、地域回覧とホームページに掲載。</p> <p>・ホームページの随時更新。</p> <p>・PTAと協力し授業公開を実施。</p> <p>・同窓会の協力を得て、OB・OGと語る会実施。</p> <p>・卒業生と語る会実施。</p> <p>・昨年度と比較し、年休が1日以上増えた職員の割合46.9%。</p> <p>・定時退校した職員の割合79.1%。</p> <p>・実施できた休養日の割合90.1%。</p> <p>・時間内に修了した会議の割合80%。</p> <p>・前年比3%を上回る縮減を達成。</p>	
------------------	---	--	--

改善課題

- ・地域連携への工夫と更なる充実
- ・業務の精選及び平準化、勤務時間の縮減等における働き方改革への取組
- ・クラス減に伴う組織力の維持及び向上
- ・各学年や各分掌間の連携の充実推進及び強化
- ・速やかな情報発信や収集に努める

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>・学習指導や進路指導、生徒指導においては、教職員が熱心に取り組み、生徒達もそれを受けて成果を出していることで評価できる。取組の継続と内容の更なる充実を図っていく必要がある。また、多様な指導の中で教職員と生徒との温度差が生じないように努力してもらっている。</p> <p>・将来の可能性を拓けるといった観点から、進学指導も可能な限り進めてもらいたい。</p> <p>・目前に迫っている高大接続改革への対策をさらに進めていただきたい。</p> <p>・四西手帳の活用について、時間の考えや自身の振り返り、評価等の観点から1つのツールとして、生徒の意見を吸い上げながら改善を進めているところが評価でき、更なる</p>
----------------------------	--

	<p>活用に期待ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事等、生徒達は意欲を持って活動してもらっている生徒の期待度や満足度も高く学校の活力に繋がっている。生徒の更なる参画と活躍に期待したい。</li> <li>・職員の健康管理については、職員の努力により勤務時間の縮減が進んではいるが、外部の期待に応えようとする熱意もあり、なかなか難しいのが現状であることは承知できるが、工夫できるところで対応をして欲しい。</li> <li>・積極的な意見ばかりに耳を傾けるのではなく、それ以外の意見にも注意深く耳を傾ける必要がある。</li> </ul>
--	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にすることを育み、自他を尊重する心や思いやりの心、自己指導能力の向上を図る。</li> <li>・主体的、対話的で深い学びへの転換を進めることで、さらに質の高い授業の創造に努め、生徒が、自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感できるようさらに授業の充実及び改善を図る。</li> <li>・高大接続改革に向け、計画立てた取組の充実を図る。</li> <li>・目標を明確に示す授業の在り方について研究し、授業の質を高める取組を行う。</li> <li>・教科マネジメントを確立することにより、学びの仕組みを十分に機能させ、基礎学力の定着と自ら設定した進路希望を実現するための、確かな学力の定着を図る。</li> <li>・教職員は、進路指導にかかわる各種データや情報を整備し活用できるように取り組む。</li> <li>・高い規範意識と公共の場での倫理観の確立を目指す。</li> <li>・学校行事・課外活動を通して活力のある西高生の育成を支援する。</li> <li>・主権者教育の充実を図る。</li> </ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が労働時間に余裕がもてるよう、さらに効率的・合理的な年間業務の運営を図る。</li> <li>・質を落とすことのない業務の精選、業務分担の平準化を進めながら、組織力と教職員の資質の向上を図る。</li> <li>・クラス減にともなう校舎施設が効果的に利用できるよう整備するとともに、施設設備の老朽化への対応を適切に行う。</li> <li>・地域連携をさらに進めることで、地域への理解と公共心や倫理観を育み、地域に根ざした人材育成に努める。</li> </ul>